

自 己 評 価 表

愛媛県立三瓶高等学校  
学校番号 (40)

教育方針	(基本方針) 人格の完成を目指して、思いやりの心・向上する心・健やかな心を養い、21世紀をたくましく生きぬく、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努める。 (指導目標) 自己教育力の向上を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。	重点目標	(本年度の重点努力目標) <small>こころ ひら からだ はくく みらい とびた</small> <b>精神を拓き身体を育み未来へ翔て！</b> -仲間とともに地域とともに- 1 地域に根ざした学校、地域に貢献できる学校を目指す。 2 個に応じた学習指導を徹底し、進路実現を図る。 3 自ら考え、自ら行動できる生徒の育成に取り組む。 4 部活動を活性化させ、健全な心と体を育てる。 5 清潔で美しい学校環境づくりに励む。 6 教育活動の公開と情報発信に積極的に取り組む。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校運営等	地域に密着した学校、地域に貢献できる学校づくり	○生徒・教職員・保護者が一体となった学校(人)づくりを進める。 ・生徒の地域へのボランティア活動参加100% ・笑顔で元気なあいさつ100% ・毎日教職員から声をかけられる生徒100% ・三瓶高校へ入学して良かった生徒、入学させて良かった保護者100%	B	・南予豪雨災害における「ボランティア活動」に生徒・教職員・保護者が参加するなど地域が一体となった活動ができた。 ・マニフェストの到達目標では、「毎日教職員から声をかけられる生徒100%」の項目で生徒の意識が90%だった。	・少人数の利点を活かした、生徒理解や活動を充実させ、一人一人の個性を伸ばす指導や援助を充実させたい。
		○学校行事への保護者の参加率を高める。 ・PTA総会出席60%以上 ・保護者の学校行事への参加・協力100% ○地域との協働に努める。 ・生徒・教職員の地域行事への積極的な参加 ・市や町と協働体制の整備による三瓶高校の魅力化 ・三瓶高校の存続と生徒の確保	B	・「かななフラワー制作」「高校生によるジオガイド」「銀ちゃんの仮想大賞」など地域との協働が昨年度以上に実施できた。 ・三瓶高校の存続と生徒確保に向け、様々な取組を西予市や地域、同窓会、PTA活性化推進連絡協議会を中心として教職員一丸となって取り組めた。	・学校と保護者、地域と学校の連携を密にし、開かれた学校づくりの環境体制を更に強化していく。また、学校として負担の大きな行事に関しては見直す必要も考えたい。
	積極的な教育活動の公開と情報発信	○ホームページをリアルタイムに更新する。 ・公開授業や学校行事など、情報の積極的発信 ・地域への情報発信と報道機関への積極的な教育活動の紹介	B	・開校日には毎日ホームページの更新を全教職員で実施し、学校の様子を保護者や地域の方に発信できた。	・ホームページは三瓶高校の活動を県内外の方にも知ってもらえる機会なので、さらなる内容の精選や工夫をしたい。
学習指導	個に応じた学習指導 -確かな学力の定着と向上-	○生徒の実態に合わせた指導法の研究に取り組む。 ・生徒の授業満足度100%	A	・授業アンケートで、「授業の内容が理解できていない」生徒が0名であった。	・教育方法の改善や教員の力量の向上のための研修を行い、より生徒の理解を深めさせたい。さらに、習熟度別講座編成の工夫を行う。
		○生徒自ら学ぶ意欲を育てる。 ・家庭学習時間毎日2時間以上 ・毎日の課題と確認の徹底 ・課題をこなせない生徒への配慮と指導	B	・学習時間調査では、昨年度に比べて20分の増加がみられた。	・進路目標を明確にし、その実現のための学習意欲を育てる。丁寧な指導、助言を継続する。
		○アクティブラーニングを取り入れた授業の研究と実践を行う。 ・校外研修や他校視察を実施 ・ICTを活用した授業改善の実施	C	・昨年度より、パソコン・プロジェクターなどのICTを活用した授業が増えた。	・毎日の実践が大切なので、アクティブラーニングを取り入れた授業実施目標を週に何回か実践してもらえる工夫をしたい。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

自 己 評 価 表

愛媛県立三瓶高等学校  
学校番号 (40)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導・特別指導	三高スピリットの育成と向上(思いやりの心、向上する心、健やかな心)	○部活動、ボランティア活動を通して確かな三高スピリットを育てる。 ・ボランティア活動参加100%	B	・保護者、生徒ともにアンケート調査結果で、三高スピリットを高める教育活動が行われてると昨年度よりも高い評価を得られた。 ・豪雨災害のため、奥地の海のかーにばるが中止となり、ボランティア活動に参加した生徒の数は減少したが、豪雨災害のボランティア活動に積極的に参加をし、防災に対する意識を高めることができた。	・思いやりの心、向上する心、健やかな心を喚起する活動を充実させたい。
	特別活動(部活動)の活性化	○生徒自身による自主的な学校行事、生徒会行事を推進する。 ・一人一役運動の推進と徹底 ・部活動加入100% ・県総体への参加30名以上	B	・全ての生徒が一人一役以上できる学校行事や生徒会活動が実施できた。 ・部活動加入率100% ・県総体参加生徒32名	・少人数の利点を活かし、すべての生徒が活躍できる行事や生徒会活動の運営を実施する。
	安全・衛生指導の徹底	○安全指導の徹底を図る。 ・登下校中の交通事故0件 ・自転車用ヘルメットの着用率100% ・交通安全委員会・保健委員会の活動の活性化	B	・登下校の交通事故0件であった。 ・ヘルメットの着用率100% ・各学年で歯科教育を実施した。 ・交通マナーアップの会議や行事に参加した。	・開校日以外でもヘルメット着用と自転車の乗車マナーの徹底を図る。 ・各委員会の活動が活発になるように、全校集会での活動を活性化させる。
	美しい学校環境づくり	○生徒・教職員、時間一杯清掃活動に取り組む。 ○汚さない・散らかさない生徒、ゴミを拾える生徒を育成する。	B B	・清掃の5分前行動の徹底ができています。 ・細かなゴミの分別などがきちんとできた。	・生徒数が少ないからこそ、一人一人の生徒に清掃の役割を持たせ、任せる指導を徹底させる。
進路指導	個に応じた進路指導	○全教職員・保護者が一体となって進路指導を進める。 ・志望校合格100%・就職内定100% ・スタディサプリの積極的活用 ・進路に関する三者面談の充実 ・在学中、各種検定一人一検定以上合格	B	・志望校合格84.8% ・就職希望者内定100% ・夏季及び冬季休業中に年2回の保護者懇談(三者面談等)実施 ・各種検定一人一検定以上合格者76.7%	・保護者と学校が一体となって進路指導の更なる充実に努める。 ・検定取得、資格取得意識の高揚を図る。 ・進路指導を全教員が共通認識を持って取り組む。
		○生徒の進路意識向上のため1年次より適切な進路情報の提供を行う。	B	・1年生が「総合的な学習の時間」を利用して学校見学を実施した。	・低学年から将来の進路デザインを構築できる活動を充実させる。
	キャリア教育の充実	○職業指導や就業体験活動の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を養う。 ・応募前職場見学の充実 ・仕事体験学習やオープンキャンパスへの参加促進 ・ハローワークとの連携強化	B	・夏季休業中、応募前職場見学に積極的参加した。 ・オープンキャンパスや校外の進路説明会への積極的参加が見られた。 ・就職希望生徒の状況について情報を提供するなどハローワークとの連携緊密化が図れた。	・校内での大学の模擬講義や専門学校の実験授業など、進路選択に役立つ企画を継続実施していく。
人権教育	人権学習の充実	○人権・同和教育HRの年4回実施や人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	B	・人権・同和教育HR活動や人権講演会を通して、人権意識の高揚が図れた。	・HR活動で人権委員が活動できるよう指導していきたい。
		○人権だよりを毎学期発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。	B	・人権だよりを毎学期発行し、生徒だけでなく保護者に向けての啓発活動が充実した。	・生徒が主体的に人権だよりを作成できるよう指導していきたい。
	情報モラル教育の充実	○授業やホームルーム活動を通して、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	B	・講演会で外部から講師をお招きして、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てることができた。	・引き続き、SNSなどの適切な利用の仕方をHR活動などの学校生活の中で伝えていきたい。

自 己 評 価 表

愛媛県立三瓶高等学校  
学校番号 (40)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
現職教育	研修の充実	○校内研修を年5回以上実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	B	・中高研修会が2回、「特別支援」「カウンセリング」「選択理論」に関する研修など5回以上の校内研修を計画し、今年度のニーズにあった研修を実施できた。	・研修に参加したときは、職員会議で報告して全員が情報や研修を共有できるようにする。また、研修の内容が偏らないようにする。
		○年5回の公開授業や研究授業を活用して、相互の授業研究の機会を増やし、授業改善に役立てる。	C	・公開授業は計画的に実施できたが、相互の授業研修はあまりなされていなかった。	・全教員の授業参観や授業研究への積極的な参加に努めるとともに、各教科の授業改善も図りたい。
保健・安全管理	保健活動の充実	○月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。	B	・毎月「保健だより」を発行することができた。	・タイムリーな情報を提供していきたい。
		○生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。 ・感染症の予防のための手洗いやうがいの励行	B	・保健委員としてクラスの保健日誌の記入やクラスの健康状況を把握することができた。 ・感染症予防のため手洗いうがいの呼びかけや教室の換気等率先して活動することができた。	・保健委員が、自ら考え行動できるよう指導していきたい。
	安全管理の徹底	○月1回の安全点検を実施し、安全管理の徹底を図る。	B	・毎月安全点検を実施し、安全な環境づくりができた。	・引き続き安全な環境づくりに努めたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	○光熱水費等の経費節減に努め、予算を有効に活用する。	B	・事務室及び職員室でガスの使用箇所を減らしてガス料金を年間4.6万円削減したことで、経費節減による予算の有効活用ができた。	・新たな経費節約となるものを模索し、教育効果を上げるための予算執行に努める。
	環境整備と安全管理	○校内の修繕箇所の早期発見、早期対応を図る。	A	・生徒の安全確保のため、週1回以上安全点検を行い、直ちに修繕に着手した。	・引き続き設備環境の向上に努める。
		○庭等の美しい学校環境づくりに努める。	A	・樹木剪定及び除草の作業が、必要な時期に適切に実施できた。	・100周年記念事業に向け、さらに美観を考慮した環境整備を計画的に進める。